子どもの日本語教育研究会第2回大会　パネルセッション2

日本語指導を担当する加配教員の役割と可能性

趣旨説明

菅原　雅枝（東京学芸大学国際教育センター）

背景：研修会参加者のつぶやきから

なぜ研修会に参加しようと思ったのですか？

国際教室担当の仕事の内容を知りたい。

はじめて日本語指導をするので、子どもとの関わり方、指導計画のつくり方を知りたい。

4月から日々迷走していました…

- 指導内容や自分の役割が不明確なまま「担当」している
- 担当者としての専門性を高めなければ、と感じている

現場の教員の存在

本パネルの目的

日本語指導を担当するために配置された教員を「加配教員」と呼ぶ

外国人児童生徒の多様化・偏在化の加速
かれらの日本語・教科学習の課題の質的な変化

文部科学省
「『特別の教育課程』による日本語指導」の導入（平成26年4月）
有識者会議
日本語指導を担当する教員の配置の充実を提言（平成28年6月）

本パネルは、担当教員配置の現状・成果・課題を整理し、
日本語指導を担当する教員の役割と可能性を探ることを目的とする。

パネルの流れ

発題１　教員加配に関する調査の報告

齋藤ひろみ（東京学芸大学）

発題２　日本語指導担当教員としての実践活動とネットワーキング

横溝　亮（横浜市立並木第一小学校）

発題３　福岡市における加配教員及びコーディネータの配置とその役割

西村綾子（福岡市教育委員会）

質疑応答 「加配教員の役割について」

発題４　日本語指導担当教員に教育行政担当者として期待すること

齋藤　潔（文部科学省初等中等教育局国際教育課）

全体ディスカッション　「日本語指導担当教員の配置による外国人児童生徒教育の展開の可能性を考える」

教員加配に関する調査から

齋藤ひろみ（東京学芸大学）

調査実施のきっかけ

① 加配の人数や配置先を加配教員本人が知らないという事実
⇒ 校内で役割が明確化されていない現状

② 特別の教育課程の導入により、加配教員が授業設計をしなければならないという状況
⇔ 取り出し・入り込み・拠点校などでの実践の蓄積、その成果を、全国的には共有してこなかったという現状

③ 加配教員の役割、意義を学校関係者、関連教育領域の関係者に伝える仕組みを作らなければならないという思い

アンケートの作成にあたって

- 「子どもたちの言語能力・学力面」「子どもたちの生活面」「指導体制や学校内の認識」「保護者・地域との関係」という4つのカテゴリーで調査
  → 日本語指導担当者の役割についての検討と『外国人児童生徒受入れの手引き』から
- 質問文は、回答しやすいよう具体的な表現に

※アンケート本文は配布資料をご参照ください。

【プロジェクトメンバー】
齋藤ひろみ、菅原雅枝（東京学芸大学）、松本一子（愛知淑徳大学）、築樋博子（豊橋市教育委員会）
【調査にご協力くださった方々】
小牧市教育委員会、豊橋市教育委員会、川崎市総合教育センター、
三重県教育委員会、（独）教員研修センター、各種研修会の参加者の皆様

アンケートの概要

- 目　的　：日本語指導担当のための教員加配による効果に対する関係者の認識を把握する
- 実施方法：研修会等で実施。同時に協力者を募り、教育委員会・学校単位で配布を依頼。
- 実施期間：2016年6月～12月
- 調査内容：

  ①4カテゴリー・28項目から回答者が「教員加配による効果あり」と考えるものを選択

  ②制度運用上の課題と解決方法に関する自由記述

教員加配の効果（カテゴリー）
1子どもたちの言語能力・学力面
2子どもたちの生活面
3指導体制や学校内の認識
4保護者・地域との関係

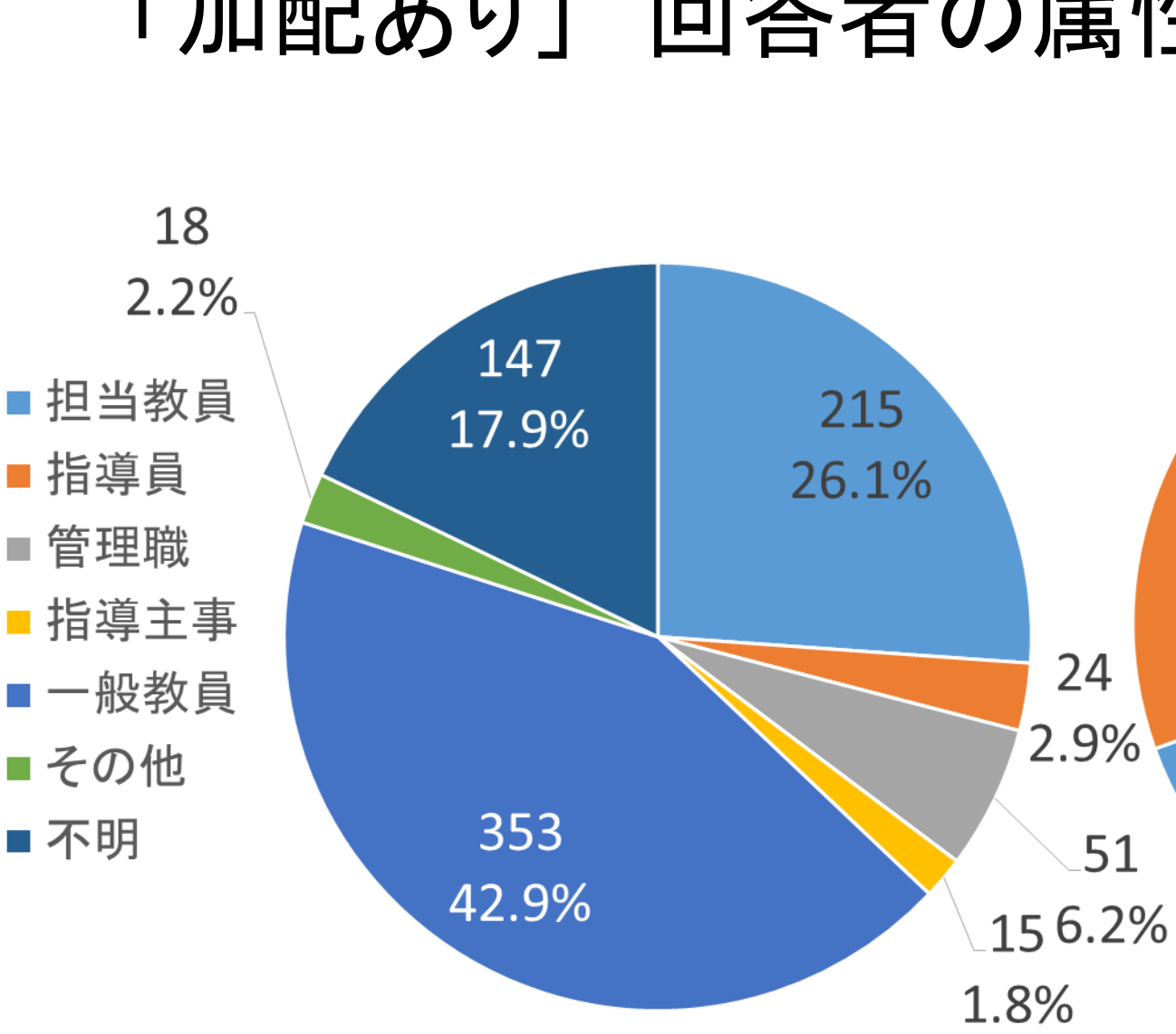
- 回答者数：955人（うち、加配あり823人、加配なし132人）

※ 「加配あり」と答えた823人を分析対象とする。

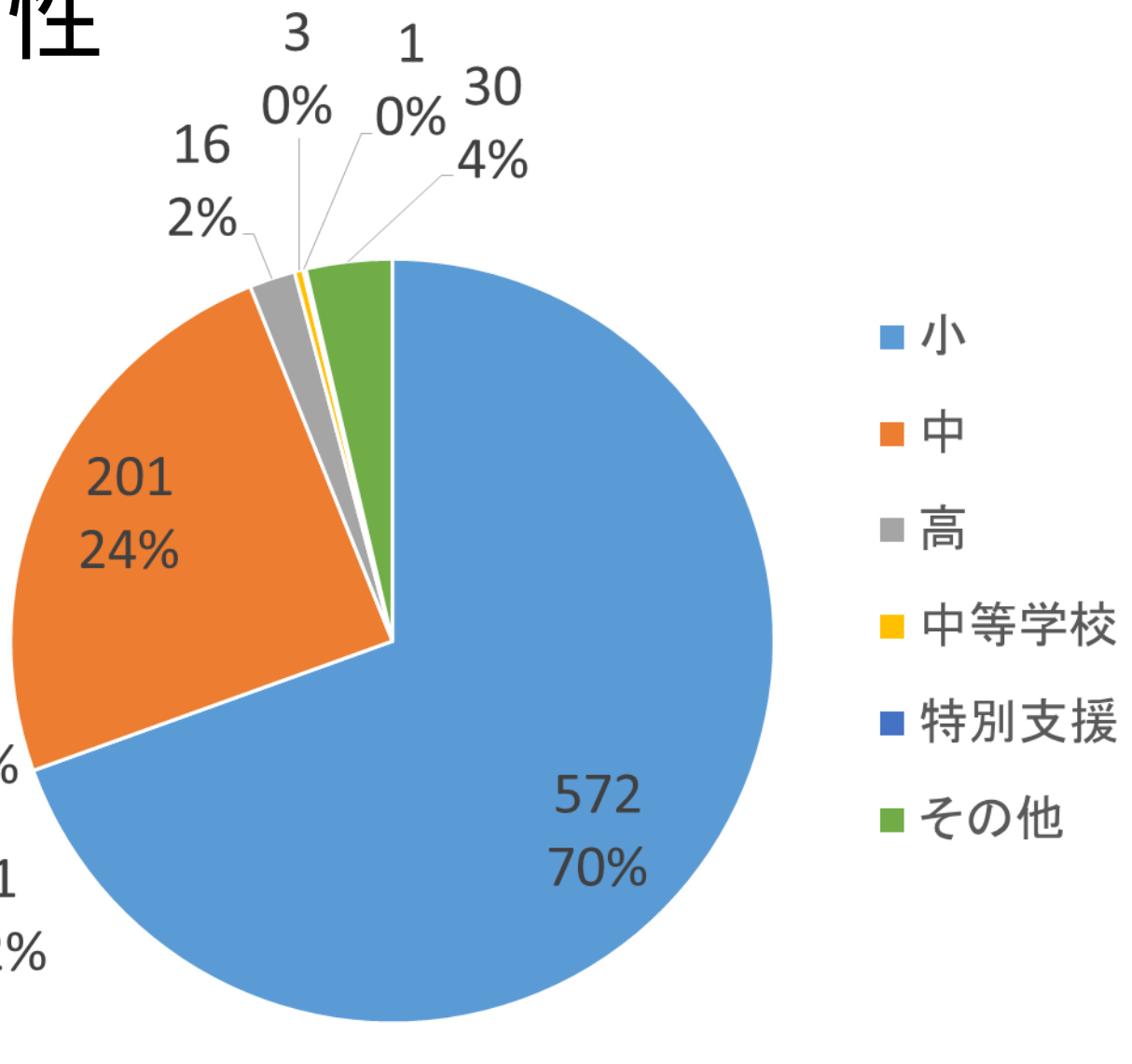
立場	人数
日本語指導担当教員	215
日本語指導員	24
一般教員	353
管理職	51
指導主事	15
その他	165
不明	147
総計	823

学校種	人数
小学校	572
中学校	201
高校	16
中等学校	3
特別支援学校	1
その他	30
総計	823

「加配あり」 回答者の属性

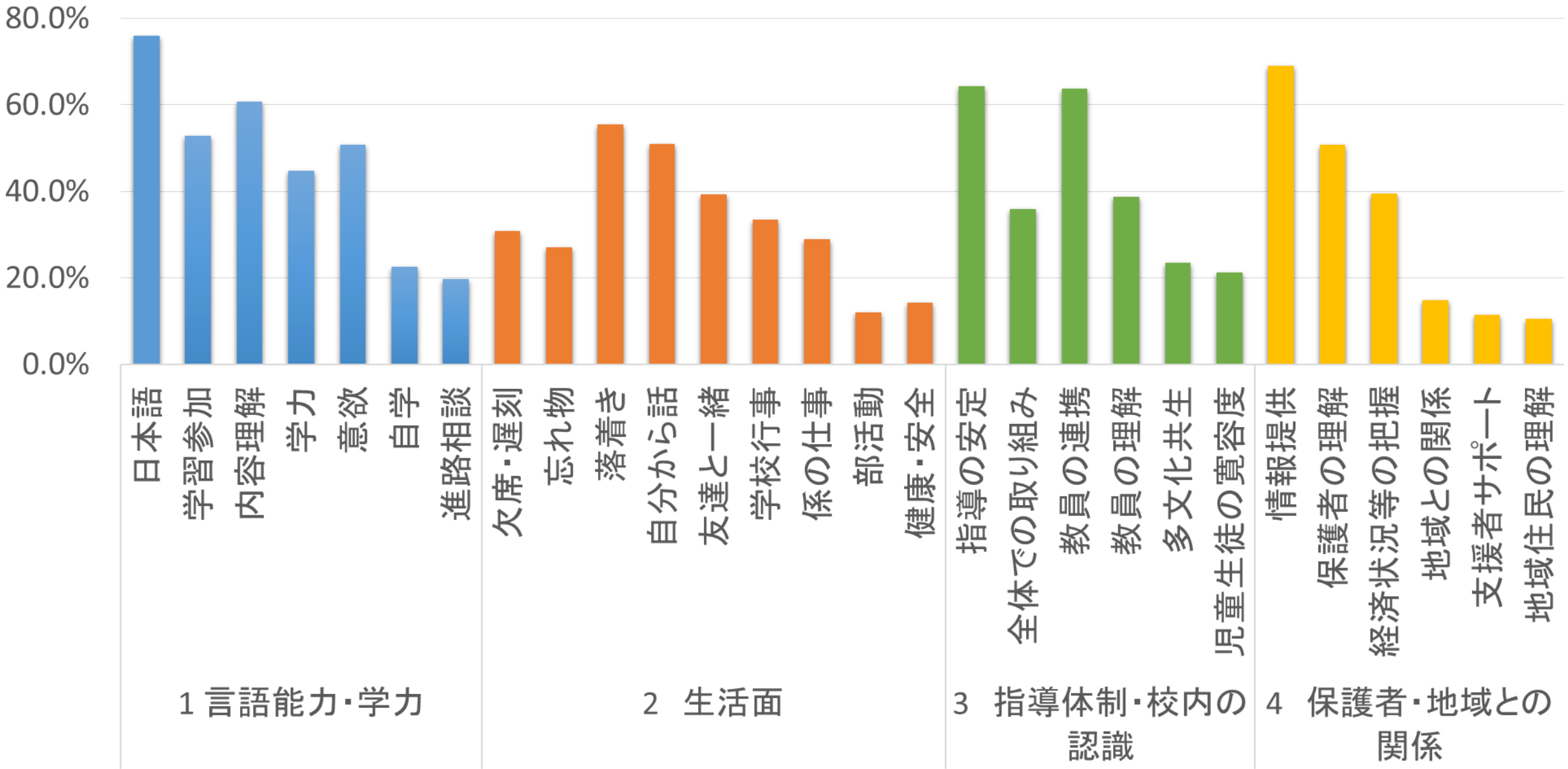


① 立場別割合



② 学校種別割合

結果1　教員加配の効果（全体　823人）



結果2　立場による違い

※対象:「担当教員」「指導員」「一般教員」「管理職」「指導主事」計658人

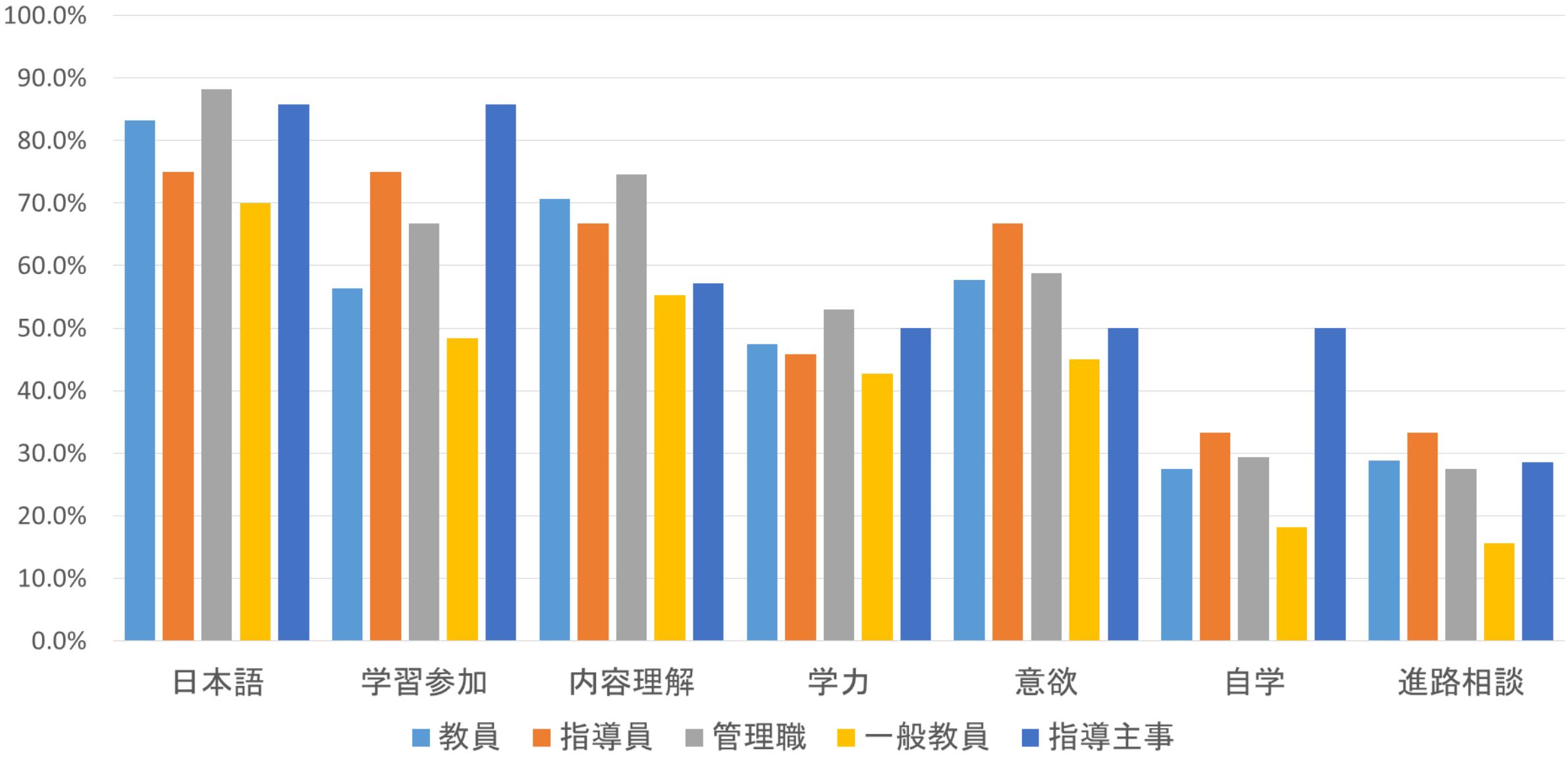
①　カテゴリーごとに各項目の「効果あり」の割合を平均

	1　言語能力・学力	2　生活面	3　指導体制・校内の認識	4　保護者・地域との関係	平均
教員	53.1%	39.4%	45.4%	38.5%	44.1%
指導員	56.5%	38.4%	45.1%	38.2%	44.6%
一般教員	42.2%	28.1%	38.1%	29.7%	34.5%
管理職	56.9%	43.4%	53.3%	39.5%	48.3%
指導主事	58.2%	39.7%	44.0%	38.1%	45.0%

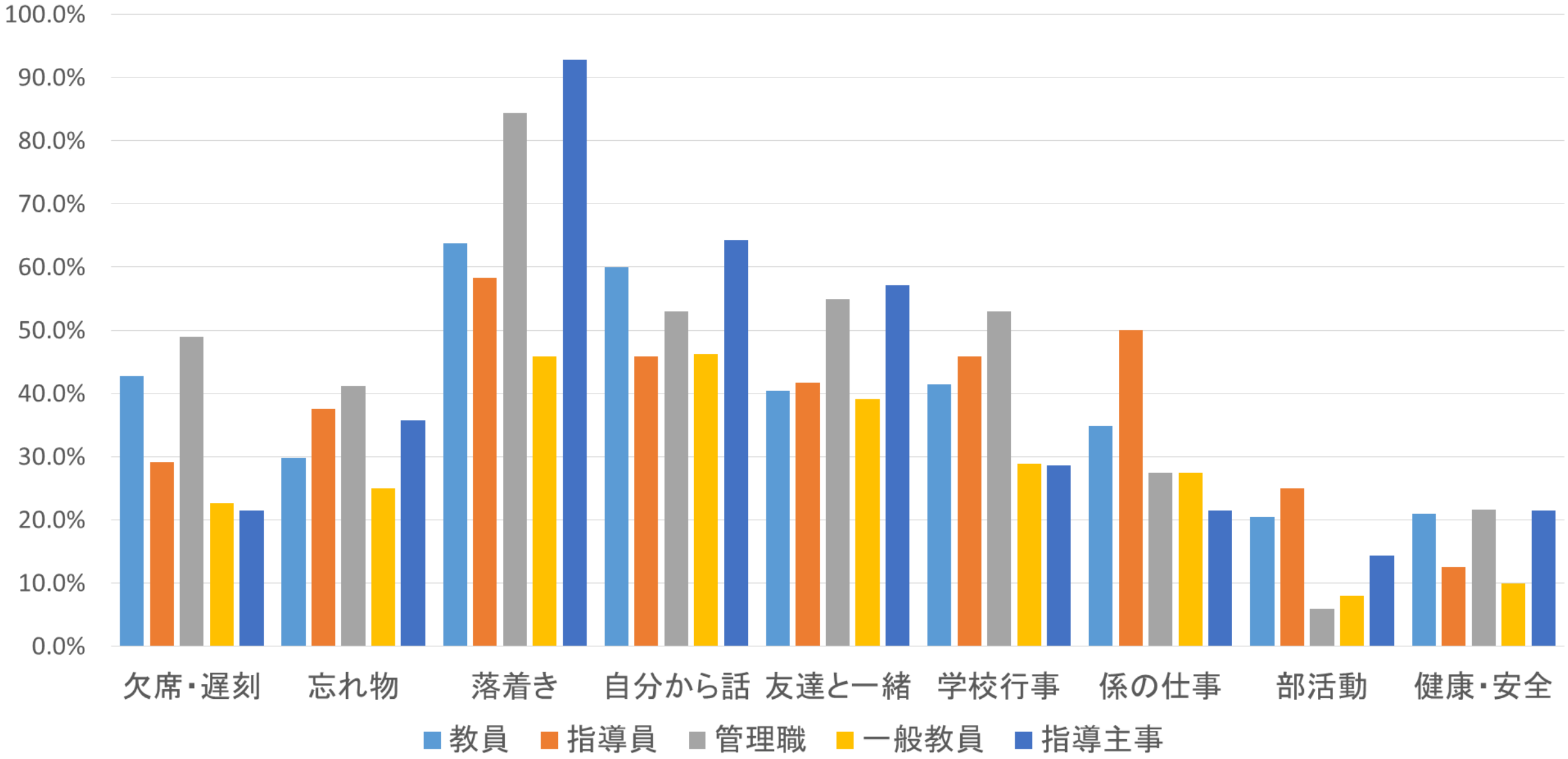
②「効果あり」の割合が高い項目　1位から10位

	担当教員	指導員	一般教員	管理職	指導主事
1	日本語	日本語	日本語	日本語	落着き
2	情報提供	学習参加	情報提供	情報提供	日本語
3	教員の連携	指導の安定	指導の安定	落着き	学習参加
4	内容理解	教員の連携	教員の連携	教員の連携	情報提供
5	指導の安定	内容理解	内容理解	内容理解	指導の安定
6	落着き	意欲	学習参加	指導の安定	保護者の理解
7	保護者の理解	保護者の理解	自分から話	学習参加	自分から話
8	自分から話	落着き	落着き	全体での取り組み	内容理解
9	意欲	情報提供	意欲	意欲	友達と一緒
10	学習参加	係の仕事	保護者の理解	保護者の理解	教員の連携

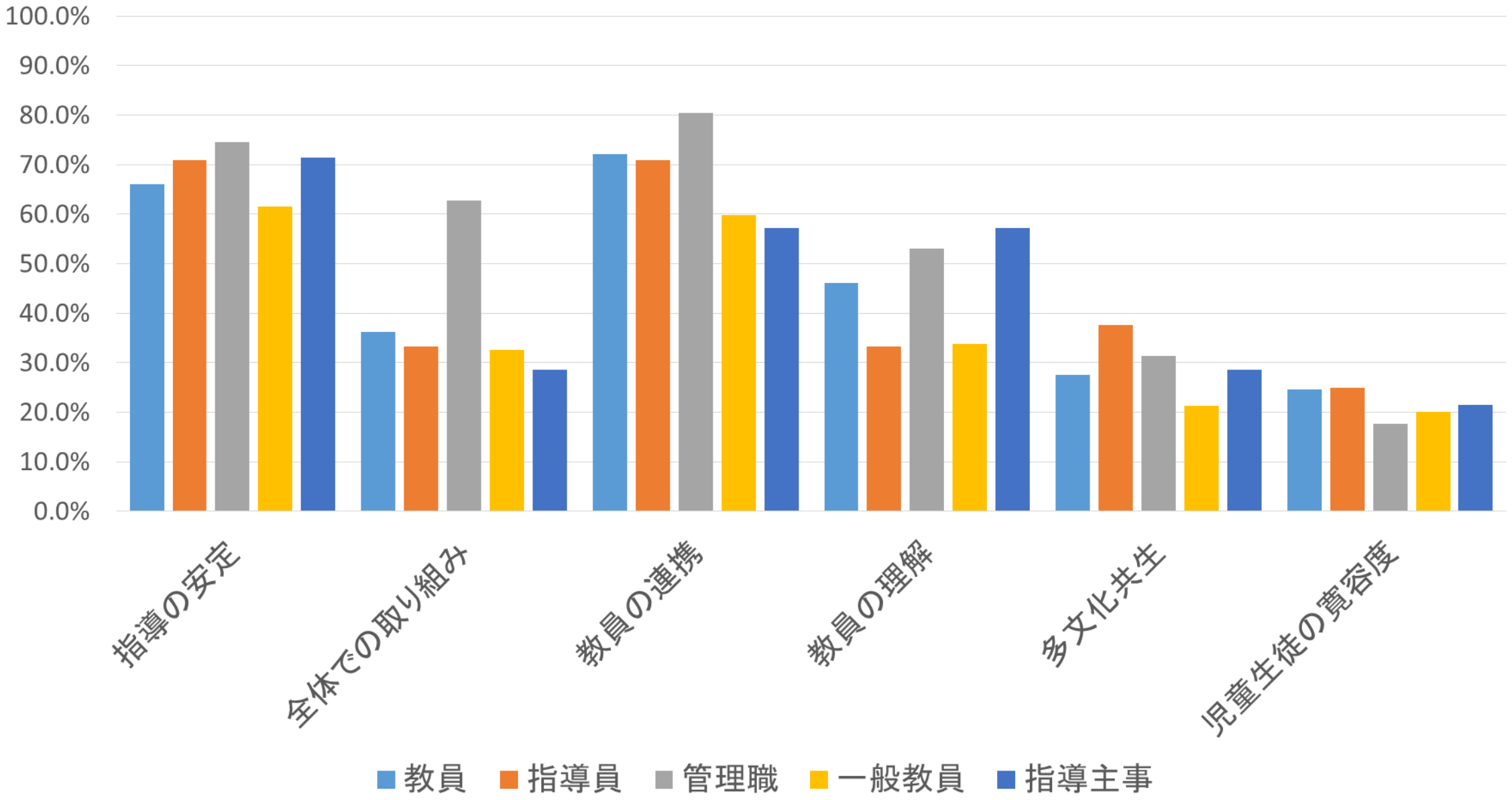
参考：　1　言語能力･学力（立場別）



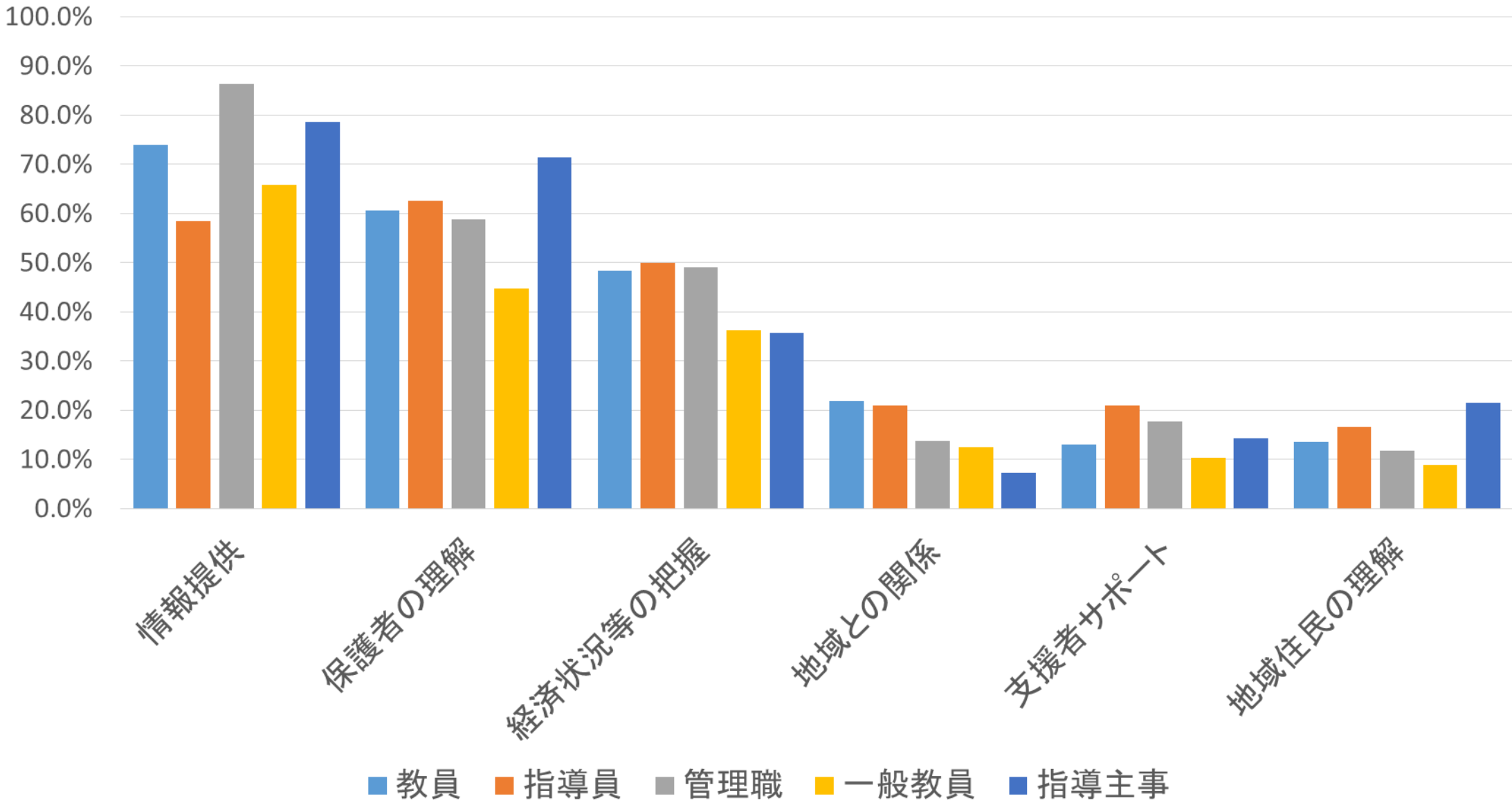
参考：２　生活面（立場別）


100.0%
90.0%
80.0%
70.0%
60.0%
50.0%
40.0%
30.0%
20.0%
10.0%
0.0%
欠席・遅刻
忘れ物
落着き
自分から話
友達と一緒
学校行事
係の仕事
部活動
健康・安全
教員
指導員
管理職
一般教員
指導主事

参考：　３　指導体制・校内の認識（立場別）

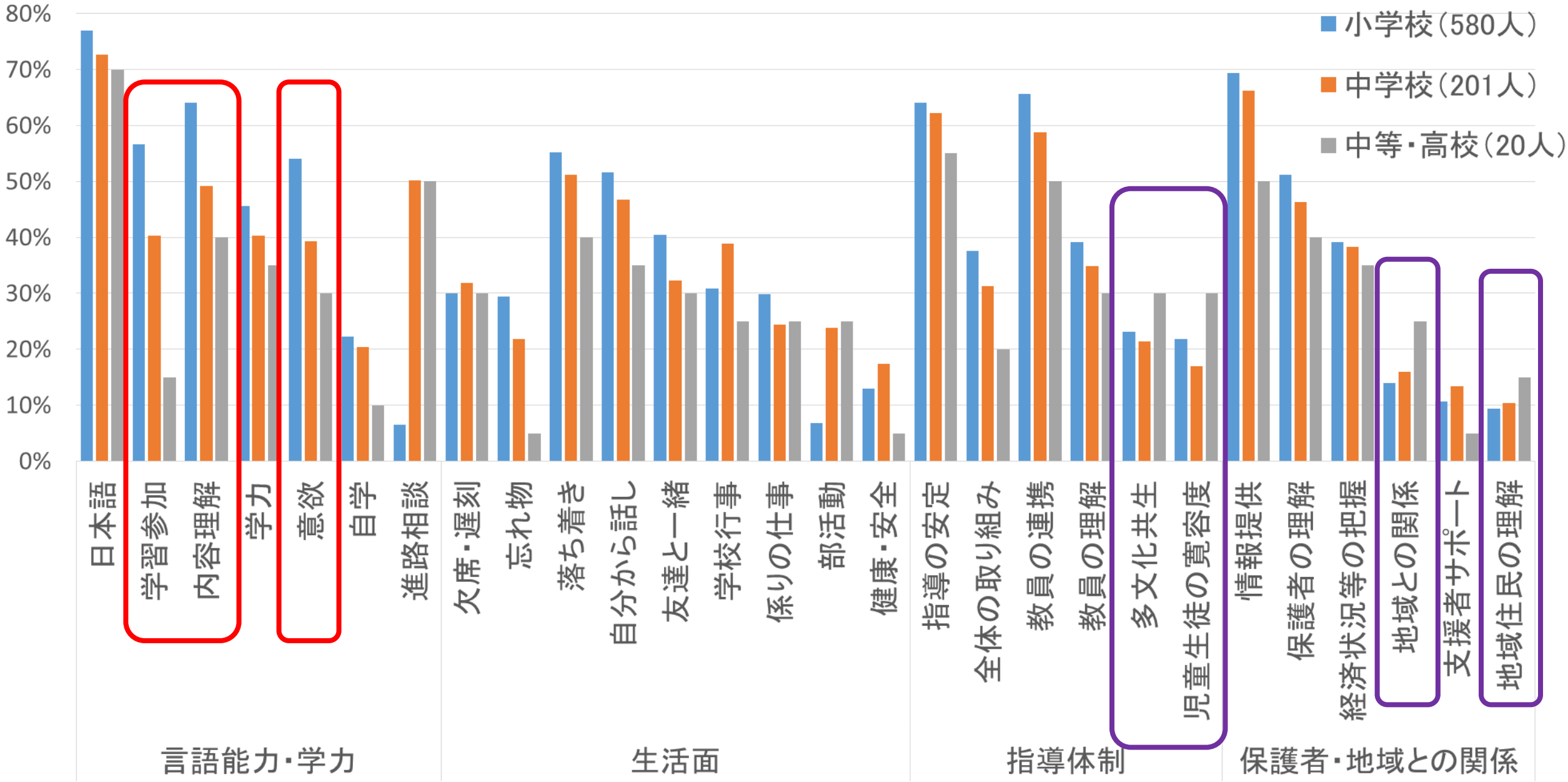


参考：　４　保護者・地域との関係（立場別）



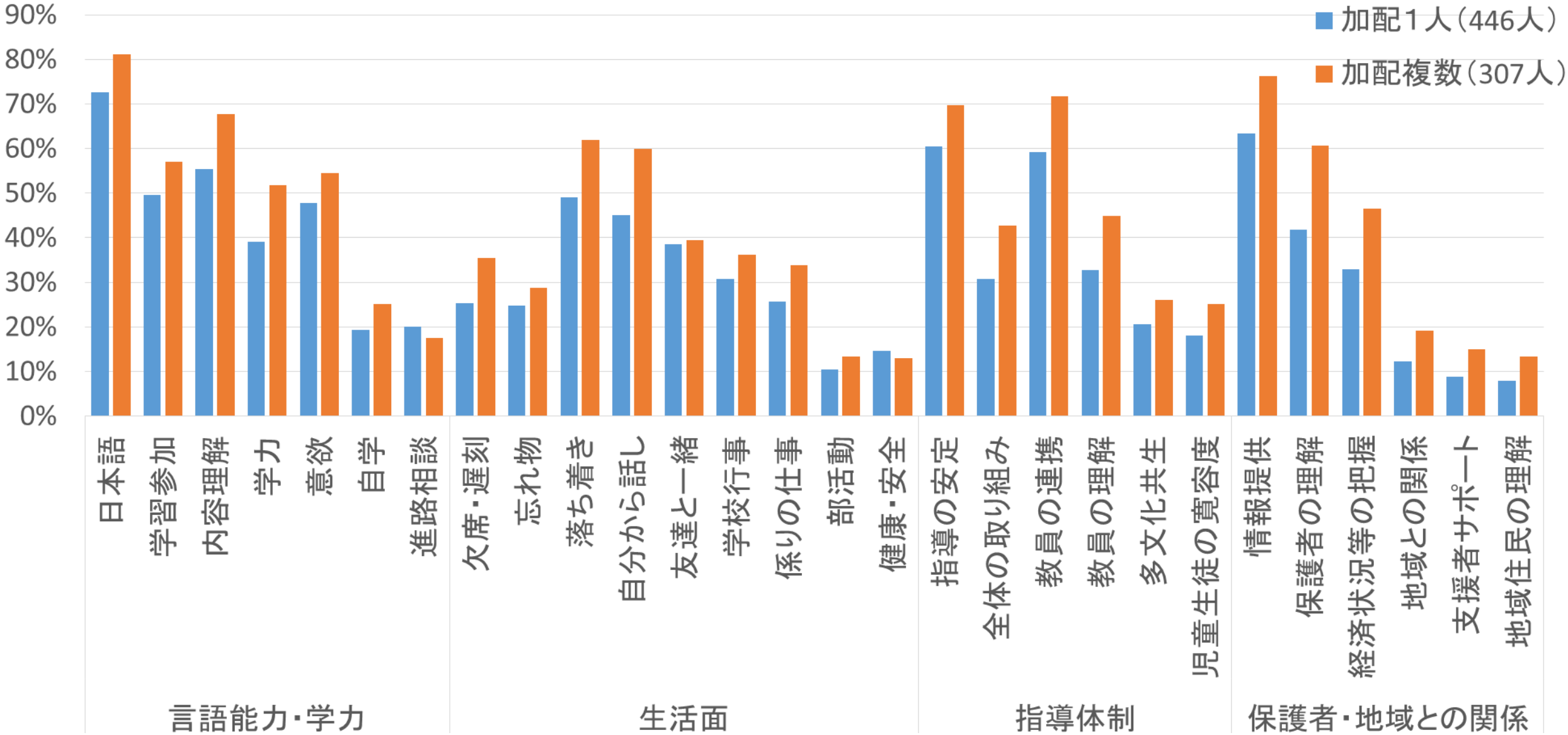
結果３　学校種による違い

※対象：指導主事を除く801人



結果４　加配教員数による違い

※対象：加配教員数の記載があった753人（指導主事を除く）



まとめ

① 加配による効果があるとされる項目に立場による差はない。

② 加配の効果自体の認識は、立場により異なる。

- 一般教員：全体的に効果の認識が薄い
- 管理職：学校内の体制づくりに関わる点で効果を認識
- 指導主事：学習、学校生活への参加を促す点で効果を認識

③ 加配教員自身の評価は必ずしも高くない。

④ 小学校では比較的効果が認識されている。

⑤ 複数配置校のほうが加配の効果が現れやすい。

加配教員が自身の実践の成果や校内の位置づけに不安を抱いている可能性が示唆される。
→ 加配教員の成果を評価する仕組みをつくり、その役割の重要性を伝えていくこと（アドボケート）と、校内外での連携・協働の可能性を広げていくことが重要